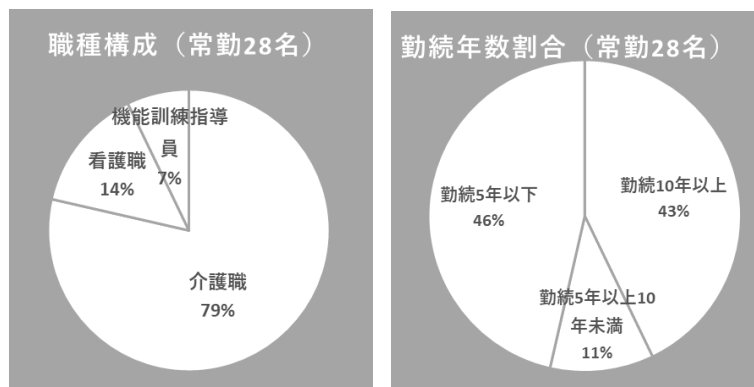


最新福祉機器 アンケート調査報告書

1. 概要

当法人ではさまざまな種類のテクノロジーと人をかけ合わせていく現場改革を2013年から取り組んでいる。機器を使うことに慣れるため、最初は種類も台数も2以内と小さく始めてきた。しかしながら、メーカーの技術開発の努力により課題解決商品が充実してきたことから、2018年度からは、モノを増やしてヒトの量を減らし、最終的には質を高めることを目的とした設備投資を戦略的に実行している。よって、その活動を検証するべく本年10月以降に導入したものを対象に1月末にアンケート調査を実施、その実態を報告書としてまとめたものである。

- 実施期間：2019年1月23日～1月28日
- 対象機器：2018年10月～12月の間に運用開始した最新福祉機器の一部
- 対象者：常勤31名
- 職種：介護職、看護職、機能訓練指導員
- 有効回答：28名（90%）



2. 前提

現場スタッフは、福祉機器を活用するための知識・技術共に適応できる状態にあるため、滞りなく運用できる状態にある。具体的には、過去に床走行リフト、センサーマットを使用してきたため、「初」の機器であってもバージョンアップしたものとして理解が出来ており、「追加」についても既に使用してきた機器であるため抵抗感はない。

3. 対象製品

2018年10月～12月の間に運用開始した最新福祉機器のうち次の4項目を対象とした。カテゴリとしては予測と移乗という二つの課題解決のために導入した機器である。

	開始		対象階	種類	商品名	数量
1 予測	10月	初	1・3階	センサー付きベット	離床 Catch ベット	8
2 予測	10月	追加	3階	センサー	眠りSCAN	10(合計12)
3 移乗	11月	初	3階	天井走行リフト	エルゴリフト ルナ	12
4 移乗	12月	追加	3階	離床アシストベット	リショーネ Plus	2(合計6)

1 予測センサー付きベット 離床 Catch ベット



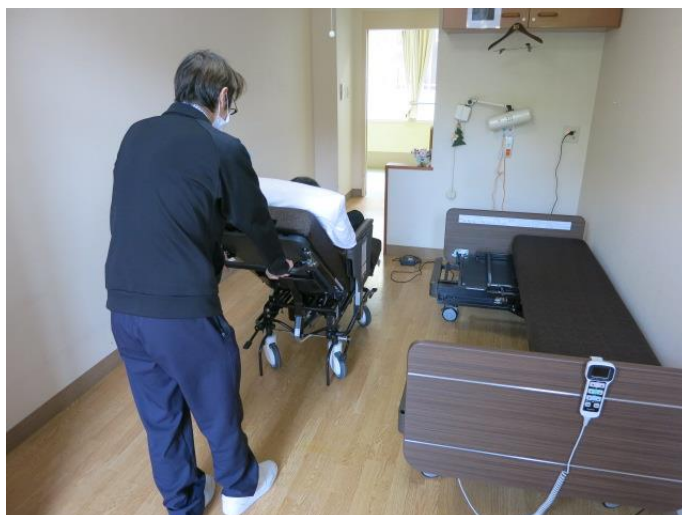
2 予測センサー 眠りSCAN



3 天井走行リフト エルゴリフト ルナ



4 離床アシストベット リショナーネ Plus



4. アンケート結果

● 満足度

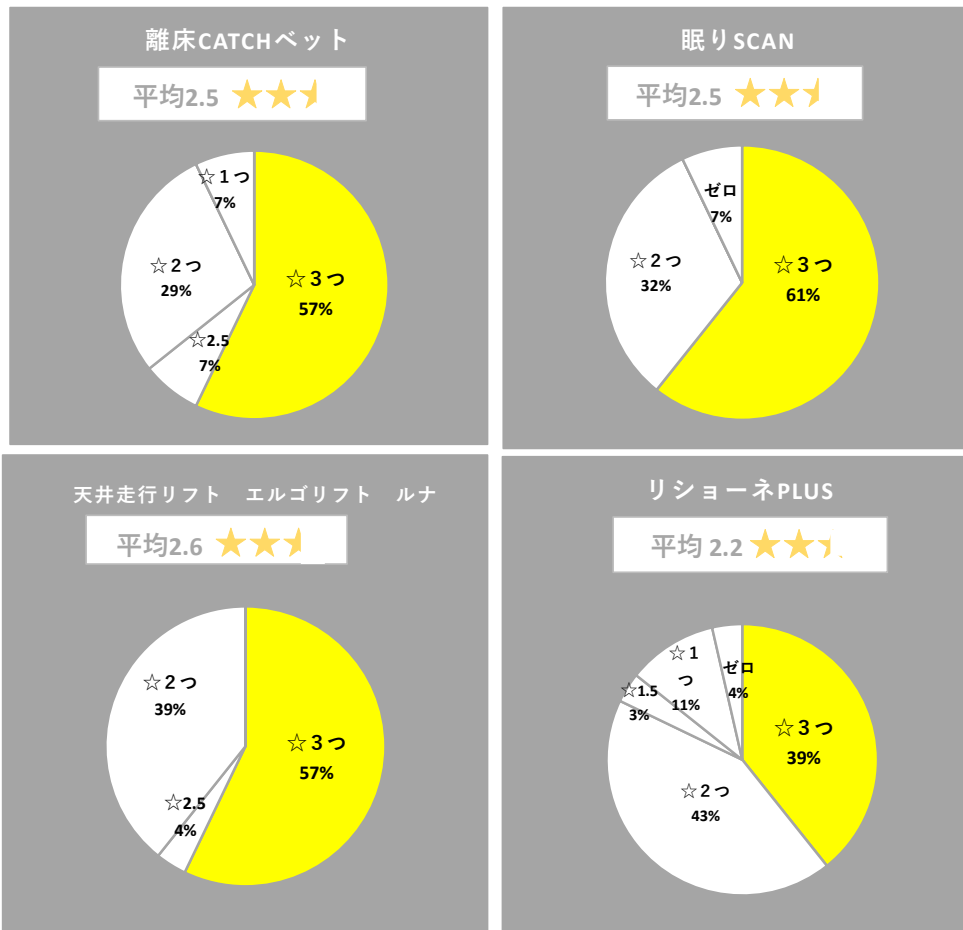
満足度を星で定量化したグラフが下記の図となる。とても満足している(星3つ) 満足している(星2つ)を合わせると、おおむね8割以上が満足している。これは当施設の課題に対する解決方法としてマッチしたと言えるだろう。

※ 当施設の特性として重度介護者の多い3階への導入機器が大半のため、1階および4階担当はトレーニングのみの経験回答である。

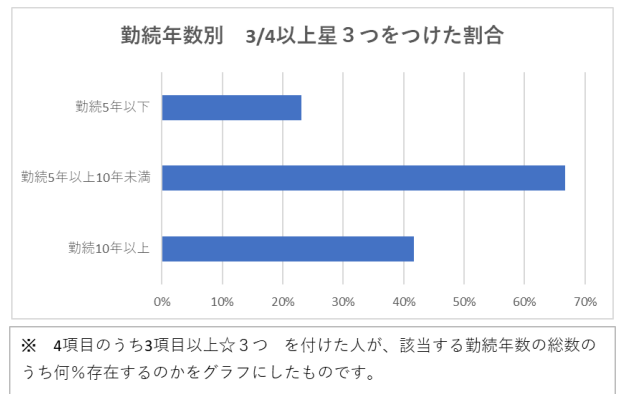
第1位 天井リフト エルゴリフト ルナ

第2位 離床 CATCH ベット 、 眠り SCAN

第3位 リショナーネ Plus



さらに、勤続年数別に4項目のうち3項目以上星3つを付けた職員の割合をみると右の図となる。勤続5年以下が20%超と低いのは中途入社でこれまでの機器導入経緯を理解できていない、経験したことがなかった等の消極的な要因が考えられる。また、勤続10年以上の場合は、機器に対する目が肥え期待値が上がっていることや未だ可能性を感じつつもその深堀に至っていないため厳しめの星2つになっている可能性がある。



● 定性評価

第1位となった移乗の天井走行リフトは、確実に腰痛課題を小さくした。その成功要因は、場所・人・機会を選ぶ必要がなく、誰でもいつでも自由にスマートに介助できる環境設定にある。第2位の予測の機器は、確実な判断ができるようになったことから不確実性からくる不安が和らぎ、安全で安心な現場に進化しつつあることがわかる。なお、より詳しい個別の感想や意見は別紙1を参照していただきたい。赤字が課題解決した部分、青字が新たな課題、要望として色分けした。

5. 成果と今後の課題解決

成果としては2点ある。1点目は、導入直後の2018年10月から2019年1月末まで、日中から夜間を含めた転倒ゼロを達成し継続できていることだ。(夜間帯は4月からゼロ件)これはいつ起こるかわからない不安をかかえて就業する従業員のストレス軽減にもなっていることが満足度にもつながっている。そしてこの事実は、特養と短期入所あわせて100床規模の施設では、稀に見る成功事例であろう。ただし、留意すべき点は機器によって人の判断力を補強したのであり、試行錯誤の創意工夫があつての結果であることを忘れてはならない。なお、この一連のプロセスについては、今後事例集として発信していく予定である。

2点目は、二人移乗ゼロを実現したことだ。達成は6月であったが、更に持続性をもたせるために天井走行リフトの導入にふみきったことは、職員の健康を守るメッセージとして強力に伝えることができている。

今後の課題としては、成果のインパクト評価そして従業員満足度(ES)の維持だ。前者については何をインパクトとするのかを踏まえ、引き続き来年度の課題とする。後者は、継続して現場消費されているリアルを注意深く観察しながら、担当階の職員入れ替え、定期的なリトレーニング、成功事例などを職員会議内で共有することで“3つのかくしん”とし、解決していく予定である。

(2019年度 事業計画予定)

3つのかくしん

- 職員配置換え …………… 自分の体験 → 確信
- リトレーニング …………… 安心の継続 → 確診
- 成功事例の発信…………… 成果の確認 → 革新

以上